

金沢大学 資料館だより

第36号

附属中央図書館の「資料館側入口」が開きました



↑ 左から、古畑資料館長、櫻井理事（情報担当・副学長）、柴田図書館長

昨年12月8日、金沢大学附属中央図書館「資料館側入口」のオープンセレモニーが行われ、平成元年（1989）の中央図書館・資料館開館以来初めて、「資料館側入口」が常時開放されることになりました。

この「資料館側入口」は、資料館への直接の出入口として造られたものの、セキュリティ上の問題から閉鎖されたままになっていました。この間、資料館展示室は中央図書館のフロアを通過しないと入ることができず、利用者からは「場所が分かりにくい」「入りにくい」との指摘を受けており、利便性向上のためにはこの入口の開放が課題でした。昨年、資料館と中央図書館との間で開放に向けて協議が行われ、セキュリティ上の問題をクリアするため、扉を自動化した上で入口専用とし、監視カメラを置き、開放時間も制限することで合意ができ、工事を終えて12月からの開放となった次第です。

開放に当たってのオープンセレモニーでは、櫻井理事（情報担当）・柴田附属図書館長・古畑資料館長によるテープカットが行われ、櫻井理事からは、これを機に資料館の認知度向上、利用者数増加への期待が述べられました。

「資料館側入口」は中央図書館の大学正面側にあり、資料館展示室の利便性は格段に増しました。資料館としては、これを機に、さらなる展示の充実に心がけて参りますので、多くの皆様に足をお運び頂ければ幸いです。

CONTENTS

- 2～3 … 展示レポート（特別展・企画展①・写真展・企画展②）
- 3 …… 公文書管理法に対応した職員研修
- 4 …… 開催案内
資料館事業報告

展示レポート

平成22年度下半期は、恒例となっている秋の特別展・冬の企画展に加え、ヴァーチャル・ミュージアム事業の成果を示す企画展、昨年度から開催している写真展と、例年になく多くの展覧会を開催することができました。学外での展示や特別資料の展示など、新たな試みも実現し、変化に富んだ内容となりました。

特別展「前身校の先達たち - 四高と医科大の10人 - 」

会期：2010/10/15～2010/11/12

会場：金沢大学資料館展示室

昭和24年(1949)に新制大学として誕生した金沢大学は、石川県内にあった6つの旧制学校の歴史を継承しています。これら前身校の歴史から数えると、平成24年(2012)が本学の創基150年となります。来る創基150年に向け、本資料館では昨年度より3年間かけて本学の歴史を遡っていく特別展を計画しています。今年度はその第2弾として、前身校である旧制第四高等学校と旧制金沢医科大学の著名な出身者を取り上げ、その学生時代や教員時代、事績



←高安右人四高教諭任命辞令
(複製、四高同窓会蔵)

などを伝える資料を集めました。

展示では、四高から西田幾多郎・鈴木大拙・井上靖・中野重治・桐生悠々・木村榮・中谷宇吉郎の7人、金沢医大から高安右人・岡本肇・久留勝の3人を取り上げ、前身校在籍時の記録や活動の足

跡を示す著作、各人の間で取り交わされた書簡といった先達同士の繋がりが窺える資料などを用いて、10人の人物像に迫りました。

期間中に集まったアンケートでは、「当時の学問に対する姿勢が窺えた」「ゆかりがあったことに驚いた」といったご感想を頂き、特に学生を始めとする本学関係者には、遠い先輩に当たる先達たちとの繋がりを感じて頂く良い機会となったようです。

前身各校からは、特別展で取り上げた10人以外にも数多くの人物が輩出されています。続編も開催も計画しています。是非ご期待下さい。

→田辺至画「木村榮博士」
学自然科学研究科蔵



企画展①「Re+Exhibition - 第四高等学校物理実験機器の魅力 - 」

会期：2010/10/29～2010/10/31 会場：石川県四高記念文化交流館

昨年度から始まったヴァーチャル・ミュージアム事業の一環として、煉瓦造りの旧第四高等学校校舎を建物とする石川四高記念文化交流館の一室を会場に、デジタル資料を展示の軸に据えた標記企画展を開催しました。

当時の雰囲気や現在に伝える旧四高校舎の中で、その魅力を一層高める物理実験機器と共に同資料の電子データをデジタル資料として展示する、実物資料とデジタル資料との融合という試みです。両者は



↑ハンズオンコーナー



↑キルヒホフ・ブンゼン氏分光器 (当館蔵)

相互に補完する役割を果たし、重厚な展示を実現することができました。

また、同展では、金沢大学サイエンス☆ラボの協力によるハンズオンコーナーを設け、実験をしたり複製資料に触ったりできるようにしました。楽しく学問に触れられたと、年齢を問わず好評でした。



写真展「よみがえる城内キャンパス」

会期：2010/12/29～2010/11/11 会場：金沢城公園 鶴の丸休憩所



昨年度に引き続き、今年度もホームカミングデイと連携して、金沢城址をキャンパスとした旧丸の内キャンパス(通称・城内キャンパス)を振り返る写真展を開催しました。

昨年度の会場となった金沢城公園の鶴の丸ミニギャラリー一帯は発掘調査の対象区域となったため、今年度は鶴の丸休憩所内の一角に会場を移しました。展示規模は縮小しましたが、国内外から多くの観光客が訪れる金沢城公園での展示は、キャンパス当時の建物がほぼ残されていない中、金沢大学の歴史であり金沢城の歴史でもある丸の内キャンパス時代と現在とを繋ぐ数少ない場となりました。



企画展②「理工学域のルーツを訪ねる - 金沢工業専門学校と第四高等学校理科 - 附・金沢大学の標本コレクション」

会期：2010/12/8～2011/3/22 会場：金沢大学資料館展示室

中央図書館「資料館側入口」の開放を機に、資料館では今まで繋がりの薄かった理工系との連携を強めようと考え、前身校の内から金沢工業専門学校と第四高等学校理科を取り上げた標記企画展を開催しました。特に金沢工専以来の小立野キャンパスを取り上げた資料館展示は初めてということもあり、小立野キャンパスを知る旧工学部関係者の方々が多く来場し、懐かしく往時を振り返っていました。



↑学生制作フォーミュラカー（金沢大学フォーミュラ研究会製作）



↑歴史資料活用プラットフォーム「KuKuRI」による第四高等学校物理実験機器展示

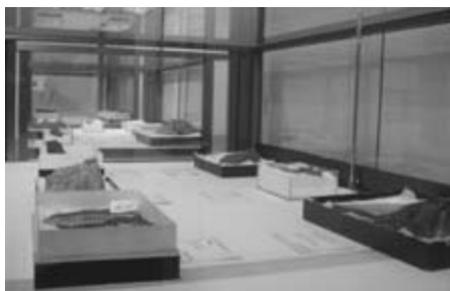
また、同展では、本学理工学域で所蔵

されている化石標本・鉱物標本・昆虫標本などを集めて付属展示しました。中には角間キャンパス内で採集された標本もあり、現在の角間の地を知る意外なきっかけとなりました。

同展期間中には、2つの特別展示も行いました。1つは、「資料館側入口」の開放によって大型資料の搬入が可能となったために実現した、金沢大学フォーミュラ研究会製作によるフォーミュラカーの展示です。角間北地区初の展示で、多くの人の目を集めました。もう1つは、企画展①でも用いた歴史資料活用プラットフォーム「KuKuRI」による第四高等学校物理実験機器展示です。企画展①より資料点数も増え、さらに充実したデジタル資料展示となりました。



→
学域蔵
標本コレクション
(金沢大学理工)



公文書管理法に対応した職員研修



当館は、平成13年(2001)の「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴い、従来からの博物館機能に加えて新たに文書館機能が附加されました。以降当館は、本学の博物館と文書館という2つの機能を担ってきました。ところが、同23年4月から「公文書等の管理に関する法律」(略称「公文書管理法」)が施行されることになり、文書館としての当館の役割や体制そのものに大きな変化をもたらすことが予想されます。

そこで、昨年12月6日、本学総務部総務課との共催で、「公文書管理法」に対応した職員研修を実施しました。

研修では、講師として迎えた内閣府大臣官房公文書管理課課長補佐植草泰彦氏から、同法の概要や行政文書管理規則ガイドラインの紹介、歴史公文書の扱い等について分かりやすい解説がなされました。参加者と植草氏との間で活発な質疑応答も行われ、同法の趣旨の徹底や公文書管理の在り方や移管に関する知識の習得など、今後とも公文書の適切な管理・保存等を進める上で、有意義な研修となりました。



開催案内



新歓展「金沢大学へようこそ」

毎年度前半は、新入生を主対象とした新歓展を開催しています。本資料館収蔵の博物資料や文書資料を用い、本学の歴史を紹介します。今回からは前身校のパネルを英文併記のものに一新しますので、是非ご覧下さい。

会期：2011/4/7～2011/9/30
会場：金沢大学資料館展示室



←金沢大学総合移転第一期移転計画模型

→キノコのムラージュ標本



期間中には、特別展示として新収蔵資料の紹介も予定しています。新収蔵資料の一つである四高の「キノコのムラージュ標本」は、かつて広く医学で用いられたムラージュ法という技法で作られた蠟模型で、東京大学と本学にしか残されていない極めて貴重な資料です。新入生のみならず、多くの方々のご来館をお待ちしています。

資料館事業報告



金沢大学資料館ヴァーチャルミュージアム構想

本事業は、当館所蔵資料の電子データを作成し、それをデータベース化してウェブ上の展示空間(ヴァーチャル・ミュージアム)を構築・公開しようとするものです。



←構築中のホームページ画面

昨年度は、事業の第1弾となる「第四高等学校物理実験機器」全176点の電子データの作成を行い、同資料によるヴァーチャル・ミュージアム構築の準備が整いました。今年度は、この電子データを用いてデジタル資料の展示を試みる(企画展①、企画展②の特別展示)と共に、ヴァーチャル・ミュージアム事業のホームページを構築しました。

ホームページは、間もなく公開されますが、本事業の紹介に加え、「第四高等学校物理実験機器」のデータベースの一部が公開される予定です。



金沢大学史アーカイブ整備事業



本事業は、金沢大学各部署で保存期間を満了した法人文書の内、「本学の歴史に関わるもの」及び「学問史的な意義を有するもの」を収集・整理・保存すると共に、これらを展示・公開・利用することを目的としたものです。

現在、当館が所蔵している非現用法人文書の整理がほぼ終了し、暫定的ではありますが、学内に順次リストを公開しています。

今後も、永く広く活用されるよう、適正な保存・利用に向けて、調査・準備を進めていきます。

第36号
資料館
だより

2011年3月31日発行

編集・発行 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町

Tel : 076(264)5215 / Fax : 076(234)4050

Mail : museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

HP : http://muse.w3.kanazawa-u.ac.jp



『金沢大学資料館紀要』第6号刊行

第四高等学校の前身校の一つである「石川県啓明学校」をめぐる問題や新収蔵資料「キノコのムラージュ標本」を対象とした研究論文を掲載する予定です。

3月中の発行を予定しています。

英語版の資料館パンフレットが できました

近年、金沢大学の国際化の進展に伴い、外国人留学生や外国からの本学への客人が本資料館を来訪されるケースが増えています。そうした方々のために、新たに英文のパンフレットを作成しました。

4月から資料館展示室入口に置かれます。